

梅雨らしい日が続いています。先日の大雨では各地で被害が相次ぎ、園内も側溝に落ち葉が詰まり園路は水浸しになりました。恵みの雨とは言いますが、降り過ぎると地盤が緩み、土砂災害が発生するので、そろそろ一度晴れてほしいものです。園内ではクチナシやアカメガシワ等、真夏の花が咲き始めました。

★ 開花情報



写真1 ノウゼンカズラ (学習展示館外壁) H28.6.28

ノウゼンカズラ (凌霄花) ノウゼンカズラ科ノウゼンカズラ属 (写真1)

中国大陸原産の落葉つる性木本で、付着根で壁や高木に這い上がります。平安時代には渡来しており、観賞用や薬木として栽培されていました。名前のノウゼン (凌霄) とは大空をしのぐという意味で、幹が長さ10m位伸びることに由来します。葉は奇数羽状複葉で対生し、小葉は5~9枚で荒い鋸歯があります。夏に濃橙赤色のラッパを思わせる花を咲かせ、豊富な蜜を目当てにたくさんのアリが集まってきます。ノウゼンカズラ属は本種と北アメリカ東南部に分布するアメリカノウゼンカズラの2種からなる小さい属で、アメリカノウゼンカズラの花はやや小さく、萼が赤橙色を帯びます。

場所：学習展示館裏

キササゲ (木大角豆) ノウゼンカズラ科キササゲ属 (写真2左)

中国大陸原産の落葉高木で、マメ科野菜のササゲを思わせる果実をつけるため、キササゲと呼ばれ、江戸時代の植物図鑑「大和本草」に「実長クシテササゲノ如シ」と書かれています。花は淡黄色で長さ1.5~2cm、内側に紫色の模様が入ります。果実は利尿剤に、樹皮は解熱や駆虫、黄疸治療に用いられます。類似種のアメリカキササゲは花が白色です。

場所：わんこひろば下



写真2左 キササゲ (薬草園横) H28.6.25



写真2右 サンゴジュ (県木の森入口向い) H28.6.25

サンゴジュ (珊瑚樹) スイカズラ科ガマズミ属 (※APG レンブクソウ科) (写真2右)

沿海地の谷筋に多く自生する常緑高木で高さ20m程になります。わが国では、関東南部以西から沖縄に、また国外では台湾や朝鮮半島南部に分布します。艶のある葉は対生し、長さ7~20cm、幅は4~8cmあります。花は6月、枝先に10cm程の花序をだし、径6~8mmの白い小さな花をたくさんつけます。サンゴジュの名は、赤色を帯びる果実や果序の様子を珊瑚に見立てて名付けられました。果実は完熟すると黒くなります。

場所：県木の森入口向かい

キンシバイ（金糸梅）オトギリソウ科オトギリソウ属（写真3左）

中国大陸原産の半常緑低木で江戸時代中期に渡来しました。公園や庭に植えられ、暖地では川沿いや石垣に野生化しています。葉は対生で葉柄はごく短く、枝葉は赤みを帯びることが多いです。6月頃、枝先に黄色く半開きの花を咲かせます。似た仲間と同じく中国原産のビョウヤナギや、ヨーロッパ原産のセイヨウキンシバイ（別名ヒペリクム・カリキヌム）、セイヨウキンシバイを片親とするヒペリクム・ヒドコートがあり、庭によく植えられています。

場所：見本園



写真3左 キンシバイ（見本園） H28.6.25



写真3右 キョウチクトウ（見本園入口） H28.6.26

キョウチクトウ（夾竹桃）キョウチクトウ科キョウチクトウ属（写真3右）

地中海沿岸からインドにかけて自生する常緑小高木で、わが国では公園や街路樹に植えられています。強靱で乾燥や暑さ、潮に耐えます。原爆投下直後の広島市の焦土にいち早く花を咲かせ、市民に復興の光を与えた花として広島市の花に指定されています。花はピンク色をですが、園芸品種では白花系や八重咲きも流通しています。名前のキョウ（夾）は「はさまる。まじる。間にはいる。」という意味で、葉をタケ（竹）に、花をモモ（桃）に例えてキョウチクトウ（夾竹桃）と名付けられました。インドではサンスクリット語のカラビラという名で呼ばれ、仏典には「歌羅毘羅樹または迦羅毘羅樹（カラビラジュ）」の名で記されています。全体が有毒です。

場所：見本園入口

★園内開花状況まとめ

咲き始め	キョウチクトウ（写真3）、ムクゲ、アカメガシワ、オオヤエクチナシ、ムクロジ、ハンゲショウ 他
見頃	ノウゼンカズラ（写真1）、キササゲ（写真2）、サンゴジュ（写真2）、キンシバイ（写真3）、タイサンボク、ナツツバキ、ネスミモチ、ケンポナシ、コウホネ、チェリーセージ 他

★お知らせ

きのこ相談について

きのこアドバイザー一退職に伴い、管理事務所でのきのこ相談は廃止となりました。今後のきのこ鑑定等については、管理事務所までお問い合わせください。